



Kuki City version of
Learning Innovation

汎用的な能力を持つ人材を育てる

「久喜市版未来の教室」

低下する「読解力」

2019年に発表された、国際的な学習到達度調査(PISA A※12018)において、日本の子どもたちの「読解力」が低下しているという結果が出たことが大きなニュースとなりました。ブログなどを読んで解答を選んだり記述したりする内容において、日本の生徒は、書いている内容を理解する力は高いものの、文章の中から必要な情報を探し出す問題や、根拠を示して自分の考えを説明する力が低迷していることが分かりました。

情報活用能力が低いと?

情報活用能力とは、情報や情報技術を使って、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成するために必要な能力をいいます。この能力が低いと、例えばインターネット上の嘘の情報に踊らされたり、必要な情報を探し出せなかったり、多くの人の目の止まる場所に個人情報を書き込んでしまうなどの危険性があります。

情報活用能力を育むには、従来の学習形態であるテストや宿題、課題で与えられた問題を解決する受け身の姿勢だけではなく、未知の問題に対して主体的に解決方法を探っていく、という姿勢が重要です。

市では、国のGIGAスクール構想※4を受け、ICTを活用する環境を整えることで、「久喜市版未来の教室」を実施。主体性・創造力・感性・協働的態度等の「汎用的な能力」を持つ人材の育成を進めます。

インタビュー

教員の負担軽減が学びの質の向上につながる

市内34の小・中学校が、いち早く実施したオンライン学習。最初に導入された栢間小学校では、事務職員で元システムエンジニアである安部さんを中心に教員が協力して取り組みが行われました。

全国でも先進的であったことから、新聞やテレビなど多くのメディアで取り上げられました。安部さんは、「アプリケーションはすでにあり、みんなで協力したので、何か特別なことをした...というわけではありません。」と話します。

次に見据えるのは、ICTを活用した教員の事務負担の軽減。例えば児童の欠席の連絡が教員の出席簿にスムーズに反映される仕組みや、市内全校の行事予定表を共有化し、行事の見直しを図ることなどを考えています。



栢間小学校事務主事
安部 友輔

